



診察室

ざくばらん

甘く見ると

余計に痛い目

特效薬がある片頭痛

「罪を憎んで人を憎まず」という。医療者は、「病気を憎んで人を憎まず」の心がないとつとまらない。

25歳のA子さん。昼ごろから、いつもの頭痛が始まった。市販の鎮痛剤をのんだが、ズキンズキンと痛みが続く。動くと頭痛がひどくなり、何度か吐いた。でも、クリニックに着いたのは、終業時間の15分ほど前だ。それまでどうしていたのか分からない。なぜか、質問に十分答えてくれないのだ。

どうやら、頭痛の発作は思春期に始まったらしい。1年に、1、2度は、今回のようにひどくなるようである。が、いまままで、通常の診察時間に診察を受けたことがない。当然、

頭の精密検査もしたことはない。

でも、病歴と症状から、A子さんの病気は「片頭痛」と思われる。ところが、何度もつらい思いをしただろつに、彼女は片頭痛に特效薬があることさえ知らないのだ。信じ難いことに、ずっと市販薬でなんとかしのいできた。

いや、A子さんだけではない。長年の頭痛持ちだが、医者に診てもらったことがないという患者さんは珍しくないのだ。確かに、片頭痛でも市販薬を早くのめば、ひどい発作を起さなくて済むこともある。だが、特效薬があれば、今度のようなつらい思いをしなくて済むのである。頻回に発作を起すすひには、予防薬もあるのだ。

いつもの頭痛と甘くみて、余計に痛い目に遭っている。そんなA子さん。入院させるほどでもない。応急処置をし、検査予約をして帰宅させることにした。で、ずいぶんと帰りが遅くなったのに、ナースが自宅まで送っていくという。家庭もあれば、子供だって待っているというのに。でもA子さん。それっきり、音沙汰なしだ。「ちょっと、淋しいわ」と、ナースがポツリ。その一言が、耳から離れない。

(石黒修三 しいしぐろクリニック

・脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身)



イラスト・野畑桃花